

笹川記念保健協力財団 地域啓発活動助成

(西暦) 2018 年 3 月 6 日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
会長 喜多悦子殿

2017 年度地域啓発活動助成

活動報告書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

マザー・テレサに学ぶホスピスケアの原点（講演会）

活動団体名： 堂園 晴彦

活動者（助成申請者）名： 堂園 晴彦

活動課題: マザー・テレサに学ぶホスピスケアの原点(講演会)

活動者: 堂園晴彦

報告書

I 活動の目的

最近、緩和医療の質が問題視されている。

医学的なアプローチが主体となり、疼痛治療等肉体的な緩和治療が主になり、根本的な寄り添う医療を学ぶ機会が少ない。

寄り添うケアを学ぶために、最も貧しい人たちに無償の愛を届け続けたマザー・テレサの精神をマザー・テレサのドキュメント映画「今ここに生きる 愛の実践」と、その監督である千葉茂樹様の講演から学び、寄り添う医療に役立つこと目的とした。

II 活動の内容・実施経過

1) 活動の内容

千葉監督のドキュメント映画「今ここに生きる 愛の実践」とマザー・テレサの修道会の日本人シスター・クリスティのメッセージ映像を上映し、交流のあった千葉監督が学ばれたことの講話を行い、医療従事者に対する希望とマザー・テレサから学んだ実践の活動について学ぶ。

千葉茂樹氏略歴) 映画監督・日本映画大学特任教授

日本大学芸術学部映画学科卒。日本映画学校・校長(2011年4月～2013年3月) 劇映画、テレビ、教育短編など多方面で脚本、演出活動を続ける。シグニスジャパン 名誉会長、生命尊重センター名誉会長。日本シナリオ作家協会会員。前日本映画大学特任教授学。

日本人として初めて取材を許可され、「マザー・テレサとその世界」(1979年)を完成。本作はキネマ旬報「文化部門」第1位、毎日映画コンクール教育文化映画第1位、日本ペンクラブ・ノンフィクション部門第1位、日本赤十字映画祭特別賞・最優秀賞を受賞した。マザー・テレサの初来日時には「マザー・テレサの祈り 生命それは愛」(1981年)を作成。教皇ヨハネ・パウロ2世の来日記録「平和の巡礼者」制作。(1981年) その他、劇映画「アウシュビッツ愛の奇跡 コルベ神父の生涯」(1981年)など。最新作「マザー・テレサと生きる」(2009年)は、生誕100年記念作品として自ら企画し完成させた。その他のドキュメンタリー作品として、「アンデスの嶺のもとに」(1982年)は、毎日映画コンクール教育文化部門第1位。「豪日に架ける～愛の鉄道」(1999年)は2001年にOCIC・JAPAN 特別優秀賞。「シネリテラシー・映画をつくる子供たち～オーストラリアの挑戦～」(2006年)にて2006年豪日交流基金賞を受賞。著書に「マザー・テレサとその世界」「コルベ神父」「映画で地球を愛したい」「こんにちわ地球家族」他多数。

2) 講演概要

「マザー・テレサの愛」映像と講演 講師:千葉 茂樹氏(映画監督・前日本映画大学特任教授)

【マザー・テレサの愛】～その魅力と列聖とは何か?～

① マザー・テレサの魅力(列聖された修道女)は何でしょうか?

*昨年 2016 年 9 月バチカンのフランシスコ教皇によって聖人に列せられた。
千葉監督自身の体験。1976 年＝初対面の印象＝ショック。

1979 年秋＝ノーベル平和賞の授賞。

その段階でのテレビ番組(81 年初来日、82 年、84 年 3 回の来日。

*活動範囲～いのち、愛、家庭、人生の役割、平和～

②映像「今ここに愛の奇蹟」(1980 年 8 月:25 分)

③マザー・テレサと日本社会 小学校国語下【愛を運ぶ人】

*最初のドキュメンタリー作品「マザー・テレサとその世界」(1978 年 11 月～12 月約 30 日内)のエピソード。

カメラの紛失とマザーと共に祈ったこと。

*死を待つ人のホーム(ニルマルヒルダイ)での床掃除とマザーの言葉。

*人間にとって最大の不幸と幸福。成熟の二つの条件

現代家族の落とし穴＝ホテル、サナトリウム、要塞、劇場。

④マザー・テレサへのインタビュー

* 5つの質問＝家庭環境、貧しい人への共感、奉仕の意味、メッセージ。

祈りとは何か＝3つのことに気づく

*母、父、子ども、愛、家庭、ユーモア

⑤初来日の反響＝生命尊重の市民運動と広がり(7/13 日生命尊重の日)

⑥マザー・テレサからのお願い

*スタッフの思い出＝夕食の取材に付いてのエピソード。

*帰天1997年9月＝最後のことば(Jesus,I trust you)

*5本の指 You,did it to me)日本の MC への電話“行きなさい”

⑦マザー・テレサの修道会の日本人シスター・クリスティのメッセージ映像上映

3)実施日時

1回目)2017年9月24日(日) 14時開演 (13時半開場)

会場:勤労者交流センター(キャンセビル8F) 多目的ホール
約300名が参加

内容)

- ・千葉茂樹監督 ドキュメント作品上映 映画「今ここに愛の奇蹟」
- ・千葉茂樹監督 講演会「マザー・テレサから学ぶ愛の実践」

2回目)2017年9月30日(土) 上映開始 16時45分～ (開場16時30分)

会場:鹿児島市 マルヤガーデンズ)ガーデンズシネマ
約60名が参加

内容)

- 「マザー・テレサ映画祭」
- ・映画上映「マザー・テレサの遺言」
- ・レクチャー:堂園 晴彦

3回目)2018年3月1日(木) 上映開始10時00分～(開場9時) 予定

会場:岩手県 水沢学苑看護専門学校
看護学生他 約250名参加予定

内容)

- ・千葉茂樹監督 ドキュメント作品上映 映画「今ここに愛の奇蹟」
- ・千葉茂樹監督 講演会「マザー・テレサから学ぶ愛の実践」
- ・千葉茂樹監督・堂園晴彦 対談

4)告知方法

- ・鹿児島にある看護学校への周知とキリスト教協会への周知を行った。
- ・一般向けには、新聞等マスコミ・フリーペーパー・ホームページで告知。
- ・水沢学苑看護専門学校は、学校独自で告知

5)対象

医療従事者・医療を学ぶ学生(医学生・看護学生等)・一般市民

6) 実施経過: 開催の決定から実施までの経過

4月下旬

千葉茂樹監督へ講演会の依頼
講演会内容計画

5月上旬

告知チラシ等の作成開始
会場予約

7月上旬～

チラシ印刷・各所へ案内配布、郵送、ホームページ告知
フリーペーパー等への掲載依頼

8月

新聞掲載・各所へ案内配布

9月24日

講演会実施(鹿児島市勤労交流センター)

9月30日

映画上映会実施(マルヤガーデンズ)

10月～

水沢学苑看護専門学校 担当者と打ち合わせ(メール)
日時・内容決定

2018年3月1日

水沢学苑看護専門学校 講演会実施予定

Ⅲ 活動の成果

1) アンケート内容

- ・新聞案内のマザー・テレサという名前に惹かれて参りました。千葉先生と堂園先生に感謝いたします。本当にありがとうございます。
- ・今日はありがとうございました。マザー・テレサにかわり、千葉先生に感謝です。
- ・おっしゃる通り、「心の栄養」だと思いました。またよろしくお願いします。
- ・シスター・クリスティの「わざわざコルカタまで来なくても、あなたのすぐ近くのコルカタを見つけて、手を差し伸べなさい」という話を聞き、ハッとしました。
- ・今、目の前の患者さんに対する思いを再度考える機会になった。

IV 今後の課題

多くの医療従事者や医療を目指している学生(医学生・看護学生)等に案内を送付したが、実際に講演会や上映会に参加した方は一般市民の方々(特に高齢の方)が多かった。

マザー・テレサの施設で実際に働き、一緒に活動をしてきた日本人シスターの講話や、交流のあった千葉監督の講演・映画を通して、現在の医療に最も大切であるヒューマニズムを学ぶための良い機会であったため、若者の参加が少ないことは残念だった。

3月に実施する水沢学苑看護専門学校での講演会は、看護学生・医療従事者が主な参加者となる予定である。

今回、医学部の学生向けの講演会も予定していたが、日時の都合が合わず期間内での実施を行うことができなかった。

実際にマザー・テレサと交流のあった千葉茂樹監督や、マザー・テレサと一緒に働いた日本人シスター・クリスティの講話には、強い説得力がある。

今後も多くの医療を学ぶ若者向けに、医療の原点であるヒューマニズムを学ぶ機会を作っていきたいと思っている。

V 活動の成果等の公表予定(学会・雑誌)

講演会を取材した新聞での講演内容掲載が行われた。

今後の活動も多くの方々に周知していただけるよう、様々な媒体で活動の意義を広めていきたいと考えている。

学会での発表や雑誌等の掲載の予定はない。

講演会・映画祭に参加したの方々からは、大変参考になり、心構えを学んだという感想をいただいた。

水沢での看護学生にも感想を書いてもらい、3月初旬にまとめを報告する予定である。

今回の助成金により、大変有意義な活動を行うことができました。厚く感謝申し上げます。

堂園 晴彦